

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「高志・卓行」の校訓の下、普通科・英語科・理数科それぞれの特色を活かしつつ、お互いが切磋琢磨することにより、高い学力と豊かな人間性を身につけ、次代を見据えた新たな価値観を見出せる学校

教育目標：「よりよい社会の創造に積極果敢に挑戦する人材」の育成

- 1 知的好奇心を持ち、自ら課題を発見し、その解決に向けて努力できる人材
- 2 高い自尊感情を持ち、自らの考えを積極的に発信できる人材
- 3 他者を尊重し、協働して物事をなそうとする人材

## 2 中期的目標

## 1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成

## (1) 「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組

ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進捗で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を75%以上にする。（新規）

イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を80%以上にする。生徒（R1 75% R2 74% R3 83%）保護者（R1 75% R2 75% R3 75%）

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を80%以上にする。（新規）

※ 令和6年度学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を80%以上にする。（新規）

※ 令和6年度学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を80%以上にする。（新規）

## (2) 「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化

ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的な思考力・判断力・表現力を育成する。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。[新規]

イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施

※ 令和6年度学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を80%以上にする。（新規）

## (3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用

ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。

イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を70%以上にする。[新規]

## (4) ICT活用の推進

ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICTを積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。

※ 令和6年度学校教育自己診断（教職員）において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を95%以上にする。（R1 68% R2 未調査 R3 90%）

## (5) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進

ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立

令和6年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上とする。（R3 724冊）

## 2 安全安心で魅力ある学校づくり

## (1) 生徒指導

ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的な生活習慣の習得および規範意識の向上

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を75%以上にする。[新規]

※ 令和6年度において、遅刻件数を1000件未満にする[R1 1152件 R2 1136件 R3 25/25 現在1067件]

※ 令和6年度において、年間皆勤の生徒を全校生徒の35%以上にする。（R1 33% R2 46% R3 37%）

イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を85%以上にする。生徒（R1 76% R2 81% R3 87%）保護者（R1 64% R2 76% R3 75%）

ウ 全教職員・生徒で、ごみの減量および分別化を推進する。

エ 校内清掃活動の日常的実施および地域と連携したボランティア活動を推進し、生徒の相互扶助精神を養う。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を75%以上にする。生徒（R1 72% R2 75% R3 78%）保護者（R1 52% R2 56% R3 57%）

オ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。

※ 学校教育自己診断（保護者）において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に発信している」の指数を80%以上にする。[新規]

## (2) 特別活動（学校行事、部活動）の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成

ア E-Fes（体育大会・文化祭）等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、自主性を重んじた指導が行われている」の指数を85%以上にする。生徒（R1 81% R2 83% R3 85%）保護者（R1 80% R2 77% R3 79%）

イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。

※ 令和6年度において、部活動加入率を90%以上にする。（R1 82.0% R2 84.1% R3 82%）

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を80%以上にする。[新規]

## (3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成

ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。

イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を80%以上にする。生徒（R1 70% R2 72% R3 83%）保護者（R1 67% R2 67% R3 72%）

<p>※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を90%以上にする。生徒（R1 87% R2 89% R3 92%） 保護者（R1 89% R2 88% R3 89%）</p> <p>ウ いじめ対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。</p> <p>※ 令和6年度学校教育自己診断（教職員）において、「いじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を80%以上にする。[新規]</p> <p>(4) 生徒支援の充実</p> <p>ア 支援教育推進委員会を中心に生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点を踏まえた支援を行う。</p> <p>※ 配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度を80%以上にする。</p> <p>イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。</p> <p>※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を75%以上にする。生徒（R1 67% R2 67% R3 76%） 保護者（R1 54% R2 59% R3 58%）</p> <p>3 進路指導・キャリア教育の充実</p> <p>(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実</p> <p>ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。</p> <p>イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組を促進する。</p> <p>ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。</p> <p>※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を80%以上にする。（新規）</p> <p>※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「生徒一人ひとりの能力・適性を活かすことのできるように、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を80%以上にする。生徒（R1 66% R2 63% R3 70%）</p> <p>(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上</p> <p>ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。</p> <p>※ 令和6年度学校教育自己診断（保護者）において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を70%以上にする。保護者（R1 47% R2 51% R3 50%）</p> <p>(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実</p> <p>ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。</p> <p>イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。</p> <p>※令和6年度学校教育自己診断（教職員）において、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の指数を85%にする。（R1 80% R2 84% R3 80%）</p> <p>(4) 生徒の希望する進路の実現</p> <p>ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、生徒の第一志望を実現する。</p> <p>※ 令和6年度卒業生のうち、第一志望の進路を実現した生徒を70%以上にする。（新規）</p> <p>※ 令和6年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を60名以上にする。（R1 32名 R2 26名 R3 44名）</p> <p>4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立</p> <p>(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり</p> <p>ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。</p> <p>イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。</p> <p>※ 令和6年度学校教育自己診断において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を75%以上にする。（新規）</p> <p>※ 令和6年度学校教育自己診断において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を75%以上にする。（新規）</p> <p>(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化</p> <p>ア 時間外勤務時間の削減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。</p> <p>※ 令和6年度までに、教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、令和3年度比6%以上減とする。（R3 12月現在 36時間28分）</p> <p>※上記、各指標における「指数」とは、各アンケート等に対する「肯定的な意見の割合」をさす。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習活動】</b></p> <p>学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数は82%と目標を達成した。また、学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は生徒83%、保護者92%であり、学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数は73%であった。そのための取組は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月および11月にそれぞれ2週間の相互授業見学を実施した。授業を見学した教員から受け取った「授業見学カード」や授業アンケートの結果をもとに、各教科で授業力向上と授業改善に向けて取り組んだ。またICTの授業への活用について、研修等を通してその活用方法の研究を進めた。</li> </ul> <p>○理数科</p> <p>学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数は88%であった。学習効果があったと考えられる具体的活動は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生では、2年ぶりに宿泊野外実習や探究基礎実習を実施でき、実物に触れる体験と研究者との対話を体験させることで、自然科学的な思考力や探究心の向上が図れた。またGIGA端末を活用した発表会も実施でき、プレゼンテーション能力の向上を図れた。</li> <li>・2年生での先端科学研修では東京大学や筑波研究施設群を訪問し、学校では得ることのできない最先端の研究や技術に触れることができた。課題研究では、生徒が主体的に実験の組み立てから結果の考察までを行うことができた。また、大阪サイエンスデイやSSH生徒研究発表会へも参加し、他の高等学校の生徒と意見交換や議論を通じた交流を行うことができた。校内の発表会ではすべての生徒が1人1台端末によつ</li> </ul>	<p><b>第1回 5月2日（月）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東高校では平成23年度から5年間SSHの指定を受け、先進的な教育活動に取り組んできた。その中で得られたノウハウや知見をレガシーとして継承し、さらに発展させてもらいたい。</li> <li>・SSHに取り組んだ経験を3学科すべてへと広げていくことをめざして、学校全体で生徒研究活動発表会に取り組んでおり、学科を超えた学びの場として生徒相互の刺激となっている。</li> <li>・昨年度より設置した探究推進部を中心に学校全体で探究活動に取り組んでおり、一つのレガシーとして具現化されていると感じている。</li> <li>・企業で働く者の実感として、目標を見つけられずに無気力な若者が多いと感じている。そういった生徒への学校としてのケアや対応を知ることができてよい機会となった。</li> <li>・学校と保護者とのコミュニケーションをさらに深めるための手段、ツールの研究を行ってもらいたい。</li> </ul>

て実験の成果を発表し、プレゼンテーション能力の向上とともに ICT 機器の積極的な利用もできた。理数科集中ゼミでは平常時では扱いきれない実験を物理、化学、数学の3分野で開講し、自然科学への一層の興味や関心を持たせることができた。

- ・各学年において大学講師による特色あるレクチャー行事をすべて予定通り実施でき、大学以降の学びに通じる幅広い分野の関心を高めさせることができた。

#### ○英語科

学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数は86%であった。学習効果があったと考えられる具体的活動は次の通りである。

- ・1年生の英語実習は、12月に延期し、スピーチコンテストと大阪ツアーのプレゼンテーション等、様々な活動を実施し、来年度の集中ゼミに向けての心構えを伝授できた。
- ・2年生は11月7日の「集中ゼミ（探究活動）」で、8グループがそれぞれのスライドを活用し、英語による発表を立派に行った。今後の様々な発表への自信につながると考える。
- ・計画的に授業を行いつつも、各担当が行事毎に特別なプランを作成し、NETを十分に活用できた。来年度もさらに効果的に活用したい。
- ・姉妹校との交流について、来年度再開できる予定である。今後も海外に行きたいという生徒の要望に沿えるよう努力する。

#### ○探究活動

学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数は79%であった。また、学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数は92%であり、目標を大幅に上回った。効果も含めて、分析は次のとおりである。

- ・「総合的な探究の時間」において、1年生は1学期に「なぜ学ぶのか」、2学期は「論理コミュニケーション」、3学期は「プレ探究 探究テーマを考える」に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成した。2年生は各学科において、生徒自らの興味・関心に応じてチームを編成し、1学期にはテーマ・仮説設定、検証に取り組んだ。2学期には中間発表会や集中ゼミでの発表を行うことで探究活動をブラッシュアップし、2月の生徒研究活動発表会で成果をあげた。
- ・教員について、研究活動委員会を通して、学年・学科を越えて探究・研究活動の進行状況とともに、問題解決のための方策を共有することができた。また、各学科において担当者の打ち合わせを定期的に行い、指導力の向上を図ることができた。10月には教員研修会を実施し、全教員で本校における探究活動への理解を深めると同時に、今後の方向性について互いの意見を共有しながら検討できた。
- ・GIGA 端末について、生徒は事例の集約、レポート作成、発表資料の作成などで活用することができた。また登校できない生徒に対して Web 会議システムを活用し、授業に参加できる環境づくりを進めることができた。
- ・全教科の教員から図書館の書籍を推薦してもらい、探究活動で図書館オリエンテーションを行うなど図書館の活用促進を図り、昨年度に比べて利用率も向上することができた。2学期はオーサービジット事業を開催し、図書館の活性化を図ることができた。新刊の入荷が例年に比べて遅れたことにより、貸出冊数の伸びに限りがあった点が今後の課題である。

#### 【生徒指導】

学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数は84%であった。また、一年間皆勤の生徒は全校生徒の36.1%であり、目標を上回った。年間の遅刻件数については、昨年よりも増加した。

- ・通院での遅刻が昨年より約2倍に増加、体調不良で遅刻する生徒も約77%増加した。これは、コロナの影響が大きいと考える。また、身体的、精神的な面で指導に配慮が必要な生徒が増加した。寝坊、忘れ物で遅刻する生徒も多く、引き続き、生徒と対話し、粘り強く指導する必要がある。

#### 【特別活動】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」の指数は生徒88%、保護者91%と高く、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数も生徒80%、保護者88%と高く評価された。一方で、コロナの影響もあり、部活動の加入率は79.4%であった。具体的な取組は次のとおりである。

- ・コロナ以前と同じ日程で、体育大会とE-Fesを実施することができた。コロナ禍および府立移管による予算制約を踏まえた中で、変化に順応した形態として精査した。またE-Fesでは、保護者の入場も緩和して実施したが、来客数は戻ってきてはいない。そのような中での取り組みが、より肯定的に評価されたのだと感じられる。
- ・生徒個々のニーズに対応できるよう、4月にクラブ見学ツアーを行った。また1月には、ESWとして球技大会的な催しを学年・学科をこえた枠組みで実施した。生徒の自主性が、主体性を持って発揮されるような場面づくりが、これからますます重要になってくると思われる。

#### 【人権教育】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数は生徒92%、保護者86%であった。効果があったと考えられる主な活動は次のとおりである。

- ・11月：生徒対象人権講演会「地上に平和を 人に笑顔を」（講師：笑福亭鶴笑様）
- ・12月：教職員・PTA 人権教育研修会「戦火の子どもたちに学んだこと」（講師：西谷文和様）
- ・7月、12月のいじめアンケートの結果をふまえ、事実と思われる事象について早急に聞き取り調査を行い、いじめ対策員会で情報共有し、速やかに対応したことから、学校教育自己診断（教職員）において「生徒の問題行動およびいじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数は生徒86%、保護者85%であった。

#### 【進路指導】

- ・生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実については、「HR や進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の自己診断（生徒）の指数は80%となり、主体的に進路について考える生徒の割合が高くなってきており、講話や講演会の効果があらわれていると考えられる。
- ・保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上については、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の自己診断（保護者）の指数は74%と昨年度より向上しており、保

- ・SSW 等を活用した生徒支援の取り組みに期待している。
- ・地域の防災拠点として、学校の存在意義は大きい。日ごろからの地域とのコミュニケーションを深めるとともに、地域と共同で防災訓練を行うことなどを検討してもらいたい。
- ・個々の生徒がもついろいろな力、多様な個性を伸ばせる学校として成長してもらいたい。
- ・生徒が将来への目的意識を早くから持つことができるよう、様々な人とのふれあいや大学・職業についての情報を生徒の中に増やしていく取り組みを実施してもらいたい。

#### 第2回 10月12日（水）

- ・相互授業見学を通じての、教職員側の変化が起きているのか。探究活動と教科教育の影響やGIGA 端末についての取り組みを、教科を横断するように活性化してもらいたい。
- ・第1回の授業アンケート結果に関して、結果の数値が高めだが、安心せずに研鑽を続けてもらいたい。また、カリキュラムが変わった学年ごとの違いなどの観点からの分析にも興味がある。
- ・GIGA 端末の状況について、詳細を知りたい。学校の取り組みを聞くと、これから生徒にもたらされる変化およびその検証に大いに期待している。
- ・学校行事の活気が地域にも届いており、生徒の生き生きした様子をほほえましく感じている。また地域連携として、ふれあい喫茶での部活動の公演や防災訓練での協働した取り組みなどもお願いしたい。
- ・保護者目線で学校行事を見ると、生徒が伸び伸びと自由に過ごしているように感じ、生徒の主体性を重んじた活動を支えていると感じている。
- ・3年保護者の立場から、進路に関する情報が生徒から上手く伝わってこない状況である。さまざまな入試制度の変化もあり、不安を感じている保護者も多いと思うため、親にも開かれた進路支援や情報伝達の在り方を検討していただきたい。
- ・生徒の遅刻件数の増加が心配である。さまざまな背景を抱えているなど、進路への不安等も感じている生徒もいると思われるので、詳細な分析をしてもらいたい。
- ・「選ばれる学校」として、令和5年度からますます精進してもらいたい。

#### 第3回 2月21日（火）

- ・中期的目標「1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成」において、評価指標を上回る肯定的な指数となっている項目が多く見られる。今後は高い学力に加え、生徒の資質の向上をもめざした教育活動を展開してってもらいたい。
- ・探究活動を教育活動の一つの柱として展開していく中で、生徒の自主的、自律的な学習習慣の形成につなげていくことを期待している。
- ・学校教育自己診断において、保護者からの肯定的な回答の割合が非常に高くなっている。校内で行っている取り組みや生徒への指導について、保護者への丁寧な情報発信を行うことがこの結果に結びついていると考えられる。
- ・授業アンケートの結果から、よく工夫され、わかりやすい授業が行われていると生徒が感じている様子がうかがえる。今後は生徒の意見や要望を取り入れた授業改善の取り組みに期待したい。教員間の授業見学などの取り組みをより効果的なものとしてってもらいたい。
- ・ICT 機器の効果的な活用についてはまだまだ伸びしろがあると感じている。今後の取り組みに期待したい。
- ・自転車通学の生徒による交通トラブルは特にない。正門から飛び出してくる自転車通学の生徒もいるので、安全のためにも時間に余裕を持った行動を心がけてもらいたい。

護者対象の講演会および進学説明会の効果がみられる。

- ・進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実については、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の自己診断（教職員）の指数は96%と高く、学習支援クラウドサービスを活用した情報提供や学年会での情報共有が効果的だったと考えられる。
- ・自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用については、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の自己診断（生徒）の指数は57%と目標には至らなかった。家庭学習の重要性をよりいっそう講話などで伝えるとともに、キャリア＝パスポートによる振り返りと目標設定をより実践的に活用できるように改善したい。
- ・第2回学校運営評議会において、「3年保護者の立場から、進路に関する情報が生徒から上手く伝わってこない状況である。さまざまな入試制度の変化もあり、不安を感じている保護者も多いと思うため、親にも開かれた進路支援や情報伝達の在り方を検討していただきたい」というご意見があったことについては、保護者メールやホームページを活用して、より細やかな進路情報の共有に努めるとともに、生徒に対して家庭での進路情報の共有を勧めるよう指導したい。

#### 【保健指導】

- ・日常の保健室での対応や保健だよりの発行など日々の指導により、学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数は生徒94%、保護者89%であり、目標を大きく上回った。
- ・清掃活動について、「積極的に清掃活動・環境美化に取り組むような指導が行われている」の指数は生徒76%、保護者80%であり、年度当初の目標は達成したものの、意欲的に清掃に取り組んでいる生徒は少ないように思える。生徒が自主的、積極的に取り組むよう検討したい。
- ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数が生徒86%、保護者85%であった。スクールカウンセラーの交代等もあり、予定していた教員研修会は1回のみとなった。今後、教職員全体で適切に情報・知識を共有したい。

#### 【学校運営】

- ・学校教育自己診断（教職員）において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数は70%であった。また、学校教育自己診断（教職員）において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数が78%であった。目標は達成したものの、チーム東高校として、教員間のさらなる情報共有、業務の連携、効率化を図る必要がある。
- ・教職員の平均時間外勤務時間は、昨年同時期（12月末現在）で38時間25分と、昨年度比5%増となった。生徒の学校生活の充実や進路実現のための補習や部活動指導、書類作成等の必須業務に加え、今年度は、府への移管に伴う事務作業の増加、1年生の新教育課程にかかる評価に関する業務過多により増加したと考えられる。ストレスチェック集団分析結果で「上司のサポート」「同僚のサポート」とともに、昨年度より向上していることから、各教員の主体的な判断・行動とともに、チーム東高校として協働的に取り組んでいると考える。引き続き、よりよい環境づくりに努めたい。
- ・府立移管に伴いホームページを一新した。また更新は450回（12月末現在）を超え、本校の教育活動について積極的に外部に発信しており、日々約300件以上のアクセスがある。また、学校教育自己診断において「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数は教員100%、生徒88%、保護者88%と高い評価を得ることができた。オープンスクールのアンケートからは、多くの中学生が本校ホームページにアクセスし、進路選択の参考にしていることが把握できた。今後もより一層内容の充実を図っていききたい。

- ・探究活動の一環として、教員による探究活動の発表の企画が実施された。教員が学び続けている姿を生徒に見せることにより、生徒の学習意欲や探究活動に対する意識の向上につながることを期待している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3 年度値]	自己評価
<p>1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成</p>	<p>(1)「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組                      ア 公開授業や研究授業を積極的にを行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。                      イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。</p> <p>(2)「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化                      ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的思考力・判断力・表現力を育成する。                      イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施</p> <p>(3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用                      ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。                      イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。</p> <p>(4) ICT 活用の推進                      ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICT を積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。</p> <p>(5) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進                      ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立</p>	<p>(1) ア                      ・教員の授業力向上をめざし、年次研修の研究授業に加え、年間2回の公開授業(相互授業見学)を実施し、「授業見学カード」等を活用し、意見交換を行う。</p> <p>イ  <b>【理数科】</b>                      ・身の回りの事象について科学的な視点を身につけるため、1年生宿泊野外実習や探究基礎、2年生理数科先端研修における実験や体験学習等を行う。                      ・科学・技術への関心を高めるとともに、自己の進路や将来像を考えるため、大学教授による講演(レクチャー)を実施する。                      ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をめざし、「課題研究」において共同研究および校内発表会を実施するとともに、外部発表会にも参加する。  <b>【英語科】</b>                      ・異なる文化や価値観に対する理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力の向上に向け、「英語集中ゼミ(探究活動)」を行う。また、グローバルな視点を身につけるため、講演会を実施する。                      ・英語でのコミュニケーション能力を身につけるため、NET(外国語指導員)との交流をはじめ、姉妹校交流、国際交流への参加を積極的に進める。</p> <p>(2) ア                      ・社会に対する生徒の興味・関心、研究に対する意欲を高め、主体的に学ぶ態度、論理的思考力を身につけるため、1年生を「探究基礎」、2年生を「探究実践」と位置づけ、少人数のチームで「探究活動」を実施する。</p> <p>イ                      ・全教員が「探究活動」の趣旨目的を共有し、生徒の活動を充実させるとともに、指導助言力を向上させ、教科指導等にも活かせるよう、定期的に情報交換会、教員研修を実施する。</p> <p>(3) ア                      ・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、学習の振り返りを行う。</p> <p>イ                      ・年間3回の全国模試の結果をもとに担任と面談を通じて、学力定着度や学習への取組について確認する。</p> <p>(4) ア                      ・授業において1人1台端末を利用した教材活用や課題作成を積極的に進めるとともに、臨時休校等に備え、日常的にWeb会議システムを活用する。</p> <p>(5) ア                      ・教科指導や探究活動などで積極的に図書館の書籍を活用する。また、生徒のニーズを把握し、オンラインを活用した図書館の書籍紹介やデジタル書籍の貸出を行う。生徒の読書意欲向上に向け、ビブリオバトルへの参加を促進する。</p>	<p>(1) ア                      ・学校教育自己診断(生徒)において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>イ                      ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を80%以上にする。[R3 生徒83% 保護者75%]                      ・学校教育自己診断(生徒)において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を70%以上にする。(新規)  <b>【理数科】</b>                      ・学校教育自己診断(理数科生徒)において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を70%以上にする。(新規)  <b>【英語科】</b>                      ・学校教育自己診断(英語科生徒)において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を70%以上にする。(新規)</p> <p>(2) ア                      ・学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>イ                      ・学校教育自己診断(教職員)において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>(3) ア・イ                      ・学校教育自己診断(生徒)において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>(4) ア                      ・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を91%以上とする。[R3 90%]</p> <p>(5) ア                      ・生徒の図書館貸出冊数を1,000冊以上とする。[新規]</p>	<p>(1) ア                      ・学校教育自己診断(生徒)において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数は82%であった。(◎)</p> <p>イ                      ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は生徒83%、保護者92%であった。(◎)                      ・学校教育自己診断(生徒)において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数は73%であった。(○)  <b>【理数科】</b>                      ・学校教育自己診断(理数科生徒)において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数は88%であった。(◎)  <b>【英語科】</b>                      ・学校教育自己診断(英語科生徒)において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数は86%であった。(◎)</p> <p>(2) ア                      ・学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数は79%であった。(○)</p> <p>イ                      ・学校教育自己診断(教職員)において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数は92%であった。(◎)</p> <p>(3) ア・イ                      ・学校教育自己診断(生徒)において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数は57%であった。(△)</p> <p>(4) ア                      ・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数は98%であった。(◎)</p> <p>(5) ア                      ・生徒の図書館貸出冊数は852冊であった。[新規] (△)</p>

## 府立東高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3 年度値]	自己評価
2 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 生徒指導</p> <p>ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的生活習慣の習得および規範意識の向上</p> <p>イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。</p> <p>ウ ごみの減量および分別化を推進するとともに、校内清掃活動および大掃除等により、校内美化の意識を高める。</p> <p>エ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。</p> <p>(2) 特別活動（学校行事、部活動）の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォローシップの育成</p> <p>ア E-Fes（体育大会・文化祭）等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。</p> <p>イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。</p> <p>(3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成</p> <p>ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。</p> <p>イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。</p> <p>ウ いじめ対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。</p> <p>(4) 生徒支援の充実</p> <p>ア 生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点を踏まえた支援を行う。</p> <p>イ スクールカウンセラー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の挨拶励行に加え、生徒会、風紀委員による挨拶運動を定期的に行う。</li> <li>年間3回の遅刻防止週間を設けるとともに、丁寧に粘り強く個別指導を行う。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒全員に各種健診を受診するよう指導する。また、その結果や健康調査をもとに校医の指導・助言を得て、適切に健康指導を行う。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の清掃と大掃除(月に1回程度)を行うことで校内美化の意識を高めるとともに、美化委員による自主的な清掃活動を促進する。ゴミの持ち帰りに関する啓発ポスターの作製・掲示やデジタル化により、ゴミの減量化・分別化に取り組む。</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校の授業や学校行事、部活動の様子等について、ホームページで年間400件以上更新する。</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部のミーティングを定期的に行い、執行部の連携を深めるとともに、学校行事等に関する生徒のニーズを把握し、生徒主体の特別活動の運営を進める。</li> <li>学年・学科、クラブの枠を越えた、東高校の一員として生徒同士のつながりを実感できる活動の場を創造する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動への加入を促すため、校内での表彰掲示や中庭ライブ、クリスマスライブなどの活動発表の場を創出する。</li> <li>クラブ間のつながり、リーダーとしての意識付け、自主的な取り組みを促すため、クラブ代表者会議を開催し、ひとつの学校としての一体感を醸成する。</li> </ul> <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が安全で安心できる学校生活を送れるよう、生徒・教員アンケートを実施し、生活実態を定期的に把握する。不安な状況があれば、関係各所で連携し、速やかかつ組織的に対応する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年において年1回芸術鑑賞を実施する。また、全学年対象の人権講演会を年1回実施する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ対策委員会を中心に、基本的な対応について教員間で共有するとともに、積極的にいじめを認知する。</li> <li>事案発生時は、速やかにいじめ対策委員会を開催し、情報共有のうえ解決策を検討し、適切に対応する。</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「高校生支援カード」等を活用し、配慮を要する生徒を速やかに把握するとともに、生徒、保護者、関係部署で連携し、当該生徒に必要な学習面、生活面等の配慮を行う。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーによる教員研修を年2回以上実施し、生徒一人ひとりに対する理解を深め、より適切な対応に努める。</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を65%以上にする。[新規]</li> <li>年間の遅刻件数を1050件未満にする [R32/25 現在1067件]</li> <li>年間皆勤の生徒を全校生徒の31%以上にする。[R3 37%]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を80%以上にする。 [R3 生徒87% 保護者75%]</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を生徒、保護者ともに70%以上にする。 [R3 生徒78% 保護者57%]</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数を80%以上にする。[R3 生徒85% 保護者79%]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率を85%以上にする。 [R3 82%]</li> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を生徒83% 保護者72%</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を生徒92% 保護者89%</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「生徒の問題行動およびいじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を70%以上にする。 [R3 生徒76% 保護者58%]</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数は84%であった。(◎)</li> <li>2月末現在の遅刻数は1790件と、昨年度より大幅に増加した。(△)</li> <li>年間皆勤の生徒は全校生徒の36.1%であった。(○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数は生徒94%、保護者89%であった。(◎)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数は生徒76%、保護者80%であった。(○)</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数は生徒・保護者ともに88%であった。(◎)</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」の指数は生徒88%、保護者91%であった。(◎)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率は79.4%であった。(△)</li> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数は生徒80%、保護者88%であった。(◎)</li> </ul> <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数は生徒92%、保護者86%であった。(◎)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数は生徒91%、保護者92%であった。(○)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において「生徒の問題行動およびいじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数は96%であった。(◎)</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度は88%であった。(◎)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数は生徒86%、保護者85%であった。(◎)</li> </ul>

## 府立東高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
3 進路指導・キャリア教育の充実	<p>(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実</p> <p>ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。</p> <p>イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組を促進する。</p> <p>ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。</p> <p>(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上</p> <p>ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。</p> <p>(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実</p> <p>ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。</p> <p>イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。</p> <p>(4) 生徒の希望する進路の実現</p> <p>ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、生徒の第一志望を実現する。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、年2回の進路講話および生徒の進路希望に応じたコース別説明会・学校別説明会を実施する。</li> <li>本校独自の「進路の手引き」を全校生徒に配付する。また、各学年に必要な進路情報を掲載した「進路ニュース」を年2回以上発行し、全校生徒に配付する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用し、キャリアパスポートを学期ごとに作成させる。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援クラウドサービスを活用し、国公立大学等に関する情報提供を随時教員向け、生徒向けに行うとともに、大阪市立大や関西大などの高大連携による様々なイベントの紹介を一層充実させる。</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者対象の進路講演会を年2回以上、大学見学会を年1回実施する。また、保護者が相談しやすい環境をつくる。</li> </ul> <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試等に関する最新情報について、学習支援クラウドサービスを用いて全教職員に適宜配信するとともに、進路指導主事が学年会に出席して入試動向を伝達する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>模試分析会、志望校検討会では、生徒一人ひとりの能力、適性を見極めるため、担任、関係教員の意見を全員で共有する。</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に面談に必要な資料提供を行い、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行う。また進路閲覧室の活用を促すとともに、進路に関してきめ細かいアドバイスを提供する。</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を75%以上にする。[R3生徒70%]</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数を75%以上にする。[R3生徒70%]</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(保護者)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数を60%以上にする。[R3保護者51%]</li> <li>学校教育自己診断(保護者)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を60%以上にする。[R3保護者51%]</li> </ul> <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数を81%以上にする。[R380%]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の指数を81%以上にする。[R380%]</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度卒業生のうち、第一志望の進路を実現した生徒を65%以上にする。[新規]</li> <li>令和4年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を40名以上にする。[R3 44名]</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数は80%であった。(◎)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数は78%であった。(○)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数は78%であった。(○)</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(保護者)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数は74%であった。(◎)</li> <li>学校教育自己診断(保護者)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数は74%であった。(◎)</li> </ul> <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数は96%であった。(◎)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の指数は96%であった。(◎)</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度卒業生のうち、第一志望の進路を実現した生徒は67%であった。(○)</li> <li>令和4年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者は35名であった。(△)</li> </ul>

## 府立東高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3 年度値]	自己評価
4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立	<p>(1)学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり</p> <p>ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。</p> <p>イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。</p> <p>ウ 有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。</p> <p>(2)働き方改革としての業務の平準化、効率化</p> <p>ア 時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を進める。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の連絡から緊急連絡に至るまで、必要に応じて学習支援クラウドサービス活用することで、業務の効率化を推進する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度目標の達成に向けた校務分掌を組織するとともに、学校課題を解決するための教員チームを設置し、教職員の主体的な行動を促進する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害等が発生した場合、管理職から教職員への情報伝達および対策や指示が円滑に行われる組織体制を整える。</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議等において、時間外勤務の現状を共有するとともに、特に時間外勤務の多い教員の実態を丁寧に把握し、個別の業務負担を減少させる。</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、令和3年度比2%以上減とする。[R3 36時間 28分]</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数は70%であった。(○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数は78%であった。(◎)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数は88%であった。(◎)</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の平均時間外勤務時間は、昨年同時期(12月末現在)で38時間25分(昨年度比5%増)となった。原因としては府への移管に伴う業務、1年生の新教育課程にかかる評価に関する業務の増加が考えられる。(△)</li> </ul>